

キレイなヘアカラーを 楽しみ続けていただくために



理美容師向けヘアカラーリングハンドブック

はじめに

ヘアカラー（酸化染毛剤）は
使用説明書をよく読んで正しくお使いいただければ
安心してご使用いただける製品です。

しかし、体質や肌状態によってはかぶれを起こしてしまふことがあります。

また、これまでかぶれることなく使用していた製品であっても、

花粉症のように突然に症状がでることがあり

かぶれに気付かずヘアカラーを繰り返すと

重いアレルギー反応を起こすことがあります。

ヘアカラーによるかぶれについて正しく理解していただき

「全てのお客さまだけでなく、理美容師の皆さまも」

ヘアカラーを楽しむ続けるためのポイントをまとめましたので是非ご活用ください。

...

ヘアカラーを楽しむ続けるためのポイント

CONTENTS

- | | |
|-----------------|------------------------|
| P2 カラーリング施術前の確認 | P7 皮膚科専門医からワンポイントアドバイス |
| P3 カラーリング施術中の確認 | ・かぶれの種類 |
| P4 お流し時の確認 | ・手荒れとかぶれ |
| P5 仕上がり～お見送り時 | P9 理美容師の皆さまへのお願い |
| P6 次回ご来店時 | P10 カラーリング施術前チェック表 |

お客さまの体調・頭皮状態等を把握することが大事！
カラーリング施術前には、しっかりお客さまへカウンセリングをしましょう。

カラーリング施術前の確認

過去のヘアカラーでかぶれ等トラブルがなかったか

かぶれたことがあったか

頭皮等に何らかのトラブルがあったか

ヘアカラー後に体調の変化があったか

当日のお客さまの体調・頭皮等の確認を忘れずに

体調が悪くないか

妊娠中かどうか

頭皮、首筋に傷・腫れ物等があるか

皮膚科医の受診をお勧めください



妊娠中の方はヘアカラーの施術ができません



ヘアカラーで かぶれ等トラブルがあった方への ヘアカラーの使用はやめましょう

- 製品や色番、メーカーを変えてもかぶれを避けることはできません。
- ヘアマニキュアや酸化染料無配合のカラーリング剤をご提案してください。
- 過硫酸塩配合ブリーチ剤でかぶれ等トラブルがあった方にはメーカーを問わず過硫酸塩配合ブリーチ剤のご使用はお止めください。



体調に問題なく、過去のヘアカラーでかぶれ等トラブルがない方でもある日突然かぶれ等トラブルが起こることがあります!!
また、かぶれる体質は一生続くとも言われています!

カラーリング施術中の確認

理美容師の皆さまご自身をかぶれから守るために、
必ず手袋をして施術しましょう!!

ヘアカラーが頭皮にしみやすい方、過去にしみたことがあるお客さま

頭皮保護オイル等を活用し、なるべく頭皮につけないように塗布しましょう!!

頭皮等にしみる、チクチクする等の異常を感じた時は直ちにヘアカラーをよく洗い流してください。



お客さまにお声かけし、体調等に変化がないか確認しましょう

息苦しさ・めまい等の気分の悪さ、じんましん等の皮膚異常が現れた時は、直ちにヘアカラーをよく洗い流し、すぐに皮膚科医の診察を受けるようご案内ください。



※万一、ヘアカラーがお客さまや理美容師の皆さまの目に入ってしまった場合は、絶対にこすらないで、直ちに水またはぬるま湯で15分以上よく洗い流し、すぐに眼科医の診察を受けてください。

※ヘアカラーが顔、首筋等の皮膚につかないように施術しましょう。ヘアカラーがついたときは、直ちに水で洗い落としてください。

お流し時の確認

ヘアカラーが残らないようにしっかり洗い流しましょう！
理美容師の皆さまは、お流しの際には必ず**手袋**をして行いましょう！

乳化の際は、強くこすらず、やさしく行いましょう！

ヘアカラーの施術により、
頭皮・肌は非常に敏感で傷
つきやすい状態にあるので
十分注意が必要です。



洗い流しが不十分だと、髪・頭皮を痛めることに！

ロングヘアの方、ネープ・こめか
み部分などはヘアカラーの洗い
流しが不十分になりがちです。
十分に気を付け、しっかり洗い
流しましょう！



仕上がり～お見送り時

ヘアカラーによるかぶれには、アレルギー性と刺激性があります。
アレルギー性のかぶれは、ご帰宅後に生じることがほとんどです。
ご帰宅後、体調等に变化がありましたら
ご連絡いただくようお願いしましょう。

ヘアカラーによるアレルギーには、即時型と遅延型があります！

即時型

at salon & barber

即時型アレルギーの場合、
ヘアカラーの最中もしくは直後に
症状が現れ始めます。

症状例：息苦しさ、めまい等の気分の悪さ
強いかゆみ、発赤、
じんましん等の皮膚異常



遅延型

at home

48h later...

遅延型アレルギーの場合、
ヘアカラーの48時間後くらいの
症状が最もひどくなります。

症状例：かゆみ、赤み、腫れ、
ブツブツ等の皮膚異常



お客さまから体調の変化について申し出があった場合
すぐに医師（皮膚科医が望ましい）の診察を受けてもらってください

かぶれを放置したり、適切な処置が遅れると、症状が長引くことがありますので、
早く医師の治療を開始することが必要です。

次回ご来店時

前回のヘアカラー後、
体調等に変化がなかったかどうか
改めて確認しましょう。



ヘアカラーによるかぶれは ある日突然に!!

ヘアカラーによるかぶれは、花粉症と同じように
突然に症状が出る場合がありますので、毎回確認することが大切です。

また、かぶれる体質は一生続くとも言われています。

必ずカラーリング施術前には
しっかりお客さまと会話を交わし、カウンセリングをしましょう!!

ENJOY!!! HAIR COLOR!!!





皮膚科専門医
松永先生
監修



+ 皮膚科専門医から

松永佳世子先生

藤田保健衛生大学
医学部アレルギー疾患対策医療学講座教授
医学博士 皮膚科専門医—アレルギー専門医
【専攻・専門分野】
皮膚アレルギー学
(接触皮膚炎、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎)
美容皮膚科学

かぶれ(接触皮膚炎)には アレルギー性と刺激性があります

アレルギー性のかぶれとは？

皮膚に付いた化学物質から体を守るための免疫が過剰に反応し、体に障害をもたらすことです。
かゆみを感じ、その後には赤み・腫れ・ブツブツ等の症状が出ます。
一度アレルギーになると一生、その物質に触れるたびに症状が出ます。

見分け方 「ムズムズ」などの頭皮、肌のかゆみ

刺激性のかぶれとは？

皮膚が敏感な方や皮膚に傷があって皮膚のバリア機能が弱っている方が、
皮膚に付いた化学物質によって、赤み・痛み等の症状を起こす皮膚炎のことです。
その物質に触れても、皮膚の状態によって症状が出たり出なかったりします。

見分け方 「ヒリヒリ」「チクチク」「ジンジン」「しみる」等の頭皮、肌の痛み

「かゆみ」、「痛み」を感じたことのあるお客さまへの対応

「今まで」および「前回」のヘアカラーで頭皮に違和感を感じたことのあるお客さま

施術後も続くかゆみ

今回のヘアカラーの施術はできません。

※ヘアマニキュア等をお勧めください。
※皮膚科医の受診、検査をお勧めください。

皮膚科医受診
パッチテスト陽性の場合

今回だけでなく以降のヘアカラーの施術はできません。ヘアマニキュアや酸化染料無配合のカラーリング剤をお勧めください。

皮膚科医受診
パッチテスト陰性の場合

ヘアカラーの施術は可能です。但し、頭皮状態や体調をよく確認し、施術してください。次回来店時にも痛み、違和感等をよくご確認ください。

施術中の痛み

今回のヘアカラーの施術には以下の点をご注意ください。

※施術前にお客さまの頭皮状態、体調をよく確認してください。
※頭皮につけないよう、塗布、施術をしてください。
※施術中や次回来店時に痛み、かゆみ、刺激感、違和感等をよくご確認ください。

お客さまに
しっかりと
お伝えしましょう



ワンポイントアドバイス+

手荒れとかぶれ



理美容師の皮膚トラブルとしてよく見られるものには、手荒れがあります。

ヘアカラーでアレルギーになることと、手荒れは密接に関係しています。

理美容師自身がアレルギーを起こさないために以下のことを参考にし、実施してください。

そのことが、理美容師だけでなく、お客さまにも

「キレイなヘアカラーを楽しみ続けていただくこと！」につながります。

理美容師の手荒れの要因は？

シャンプーによる脱脂、ヘアカラーやパーマの刺激が大きな要因。
手荒れの発症はアレルギーを引き起こしやすい状態と認識してください。

手荒れがアレルギー性のかぶれの要因になるのはなぜ？

手荒れにより皮膚のバリア機能が低下し
ヘアカラーやパーマの成分等にアレルギーを引き起こす可能性が高くなります。

手荒れしないためには？

手袋の使用を徹底することが重要です。
シャンプーはもちろん、全ての作業に手袋着用が必須！
使い回しせず、「使い捨て」使用が望ましいです。
また、ハンドクリームをこまめに使用することも有効です。
手指にいきわたるまで、しっかりと塗りましょう。

手袋は、どのようなものがいいのか？

染料が透過しにくい点から『ニトリル』が好ましいです。
また、ニトリルでも加硫促進剤不使用のものがよく
手首までしっかり隠れる長さのものをご使用ください。
サロンごとに手袋をしっかりと選定し、使用していくとよいでしょう。

ヘアカラーでかぶれる理美容師は、100%手荒れをしているといっても過言ではありません。

**まず、理美容師自身の手荒れを予防することが重要で、
それには手袋の着用が不可欠です。**

手荒れが2週間以上続くような場合には、皮膚科医を受診して、しっかり治すことが大切です。

理美容師の皆さまへのお願い

使用説明書をよく読んで、正しくお使いください。
あなた自身とお客さまをかぶれから守るために
以下のことを実施してください。

- ヘアカラーに直接触れる作業を行う時(施術、すすぎ等)は、必ず手袋を着用してください。
- お客さまとのコミュニケーションを通じて、ヘアカラーのリスクと皮膚アレルギー試験(パッチテスト)の必要性、ヘアカラーやアレルギー反応の特性、対応策等について情報提供を行ってください。
- お客さまが過去にヘアカラーで異常を感じた経験の有無や、施術当日の肌の健康状態等、ヘアカラーの使用に適することを確認してください。
- ヘアカラーを用いた施術が適さないお客さまに対しては、ヘアカラーのリスクを丁寧に説明するとともに、ヘアカラー以外のヘアカラーリング製品(例えばヘアマニキュア等)を用いた施術等の代替案を提案していただき、ヘアカラーは使用しないでください。

以下に該当するお客さまはヘアカラーの施術に適しません。
ヘアカラーの施術をしないでください。

- 今までに本品に限らずヘアカラーでかぶれたことのある方
- 今までに染毛中または直後に気分の悪くなったことのある方
- 皮膚アレルギー試験(パッチテスト)の結果、皮膚に異常を感じた方
- 頭皮あるいは皮膚が過敏な状態になっている方(病中、病後の回復期、生理時、妊娠中等)
- 頭、顔、首筋にはれもの、傷、皮膚病がある方
- 腎臓病、血液疾患等の既往症がある方
- 体調不良の症状が持続する方(微熱、倦怠感、動悸、息切れ、紫斑、出血しやすい、月経等の出血が止まりにくい等)

カラーリング施術前チェック表

ヘアカラーを正しくご使用いただくために
ご新規・リピーター問わず
カラーリングを希望されるすべてのお客さまに対して
以下の項目を施術前に確認しましょう!!

1. お客さまの本日の体調等

良好 普通 体調が悪い[※] 妊娠中[※]

2. お客さまの頭皮や顔、首筋にはれもの、傷、皮膚病等があるかどうか。

※お客さまへのヒアリング後、理美容師の目視でもご確認ください。

無かった あった[※]

3. これまでヘアカラーでかぶれたことがあるかどうか。

(ご自宅、理美容室問わず)

ヘアカラーをしたことがない 無かった あった[※]

4. **ご新規さま** これまでヘアカラーの時に

リピーターさま 前回のヘアカラーの時(ご帰宅後含む)に

頭皮や体調等にトラブルがあったかどうか。

例) 息苦しさ、めまい等の気分の悪さ、かゆみ、赤み、腫れ、ブツブツ等

無かった あった[※]

チェック表1～4で※印にチェックがあった方は、
ヘアカラーの施術ができません。
ヘアマニキュアや酸化染料無配合のカラーリング剤を
ご提案してください。

より詳しい情報、「理美容師向けヘアカラーリングハンドブック」は
日本ヘアカラー工業会HPより、参照・ダウンロードができます。
是非、ご活用ください。



<http://www.jhcia.org/>

最寄りの皮膚科連絡先を確認しておきましょう！

皮膚科病院名：

連絡先：

理美容師向け ヘアカラーリングハンドブック

平成29年6月1日第1版第1刷

編集 日本ヘアカラー工業会 理美容師啓発専門委員会

発行 日本ヘアカラー工業会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-4-9 人形町双葉ビル 9階

本書掲載のイラスト、記事等の無断複写・複製・転載を禁じます。